

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

とう oun
稲雲

令和6年度 第21号

令和7年3月14日発行

発行者：校長 田中 朗裕



○感動的な「巣立ちの日」となりました

3月13日（木）に「第4回卒業証書授与式」を実施しました。多くのご来賓の皆様、保護者の皆様にご臨席を賜り、厳粛な雰囲気の中「卒業証書授与式」を挙行できましたことに、心より感謝申し上げます。卒業証書を授与される時の返事、式歌の中に卒業生と在校生それぞれの「思い」が詰まっていると感じ、私自身も感動でいっぱいでした。

思い出があふれる9年間の義務教育を終え、新しい舞台に第一歩を踏み出す卒業生34名にとって、生涯忘れることのできない、大切な1日になったと思います。多くの生徒が涙を流しながら巣立っていったことが、稲田学園で過ごした日々が思い出深く、充実したものであったことの「証」であると感じています。

多くの人に愛情を注いでもらい、支えられながら、信じて見守ってもらった今日までの日々「感謝」を忘れず、新しい道へ力強く歩み出してくれることを教職員一同、心から願っています。卒業生34名のみなさん、ご卒業おめでとうございました。



○「震災から学ぶ会」を実施しました

3月11日（火）の3校時目には前期課程の児童に、4校時目には後期課程の生徒に「震災から学ぶ会」を実施しました。「富岡町3.11を語る会」から講師の先生をお招きして、「東日本大震災」が発生した当時から現在までの経緯について、ご自身の体験を交えながら、貴重なお話をいただきました。本校の児童生徒のお礼の言葉には、「震災を自分事として捉え、自他の命を大切にしたい」「当時の記憶や教訓を後世に引き継いでいきたい」という決意が込められていました。この会で学んだことや感じたことを、自分たちの力で「福島県の未来」を彩り豊かで明るいものにする力に変えてほしいと思っています。

また、午後2時46分には、全校児童生徒で黙祷を行い、犠牲になった方々の冥福をお祈りしました。



○9年生に「食育」を実施しました

2月28日（金）の給食の時間に、9年生で「食育」の指導を行いました。高校入試に立ち向かう9年生に「朝食の大切さ」、「試験前日の夕食」、「試験当日の朝食」について栄養技師から話をしました。給食で9年生の成長を支え、進路実現を応援したいという熱い思いのこもった指導でした。その思いが伝わり、生徒たちも真剣に耳を傾けていました。



○フルーツバイキングを実施しました!!

3月12日（水）に、9年生の卒業祝いとして「フルーツバイキング」を実施しました。9年生にとっては、「最後の給食」となることから、給食担当の職員のアイデアで実現しました。4種類のフルーツが準備され、「ビタミンを摂って、ウイルスやストレスに負けない強い体を作ってほしい。」という、児童生徒への願いが込められていました。



○「メディアコントロール」が課題です

2月28日（金）の校内保健委員会で、次年度の具体的な取組について話し合いを行いました。児童生徒が自らメディアとの関わり方や利用をコントロールし、よりよい生活を送れるように支援するために、次年度も今年度と同様に「メディアコントロール週間」など、学校の取組を継続・強化していきます。



随想

「はい」～卒業式の返事がもつか～

今週卒業式がありました。卒業式の「証書授与」の時に、担任が生徒の名前を呼び、生徒が返事をします。今回は、この「はい」という2文字がもつかについて書きたいと思います。

後期課程の生徒は思春期真っ只中で、日々、本当に様々な変化をします。昨日とは別人のように大きな成長を見せる子どももいれば、その逆もあります。勉強のこと、友だちのこと、部活動のこと、家族のことなど、多くの不安や悩み、時にはストレスを抱えて、すべてを投げ出そうとする子どもに出会うこともあります。思春期は、自分の思いをどう表出したらいいかわからない、自分が何に腹を立て、どうしたいかすらよくわからない、という時期ですから、当たり前です。

そんな子どもと向き合う時、私たち教師は、その子のことを思い、いろいろな声かけをしたり、働きかけをしたりします。しかし、そんな私たちの思いが、子どもの心に届かない、納得させられていないと感じることもあります。「もしかしたら嫌われたかもしれない。」「でも、自分がやるしかない。」と、時には心を鬼にして話をすることもあります。自分の無力感を感じたり、どうしたらいいかわからなくなったりすることもあります。それでも、その子とたくさん話をし、時にぶつかり、困らせたり、困らせられたり…。そんな時間を過ごして迎える卒業式で私が名前を呼んだ時に、その子から「はい」という大きな返事を聞けることがあります。その瞬間「やってきてよかった。」「伝わったんだ。」という気持ちになります。「ありがとう。」という思いも込み上げてきます。今までのすべてが報われる瞬間でもあります。「はい」というたった2文字ですが、私たち教師にとって、これまでを振り返り、自信をもって次に進むための大きな力になります。もちろん、子どもたちは、家族への感謝、友との別れを惜しむ気持ちなど、様々な思いをもって「はい」と返事をするのだと思います。でも、私には「先生ありがとう」「がんばるよ」にも聞こえるのです。「教師っていい仕事だなあ」と思えるのです。だから、私は卒業式で聞くことができる「はい」が大好きです。